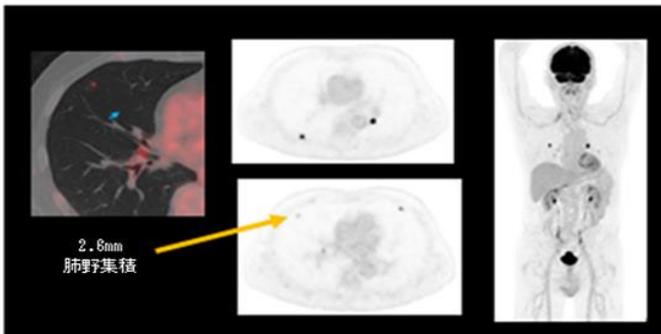


2021年1月より、最新鋭の半導体型PET-CTが稼働しました。

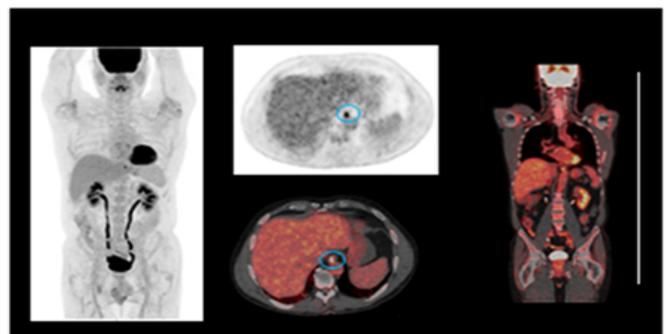


特徴1 高い検出能

半導体技術と画像構成技術の進歩により、小さな病変までも検出が可能となりました。早期病変の診断に役立てられます。



微細な肺がん症例。大きさ2~3mmの小さな肺がんも描出されています（矢印）。



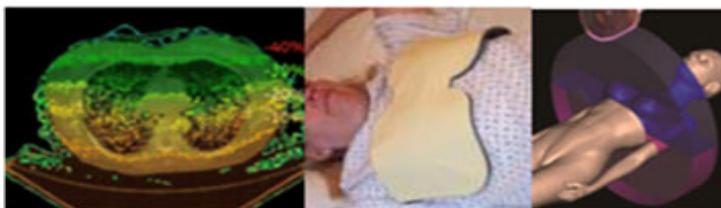
早期食道がん症例。早期食道がん（T1相当）も描出されています（丸印）。

特徴2 低被ばく

放射線の感受性の高い臓器の被ばく低減機能や画像ノイズの低減機能を有しており、画質を劣化することなく、X線による被ばくを低減することが可能です。



水晶体被ばく
30%減

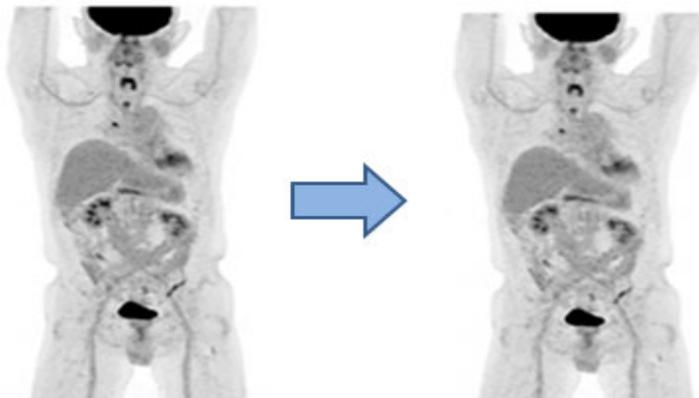


乳腺被ばく
30%減

被ばく低減機能の一例

特徴3 短時間撮影

検出器の性能向上やワークステーション(コンピュータ)の処理速度の向上により検査室の滞在時間は約10~15分に短縮されました。
患者さんのじっとしている時間が短縮され、負担軽減になります。



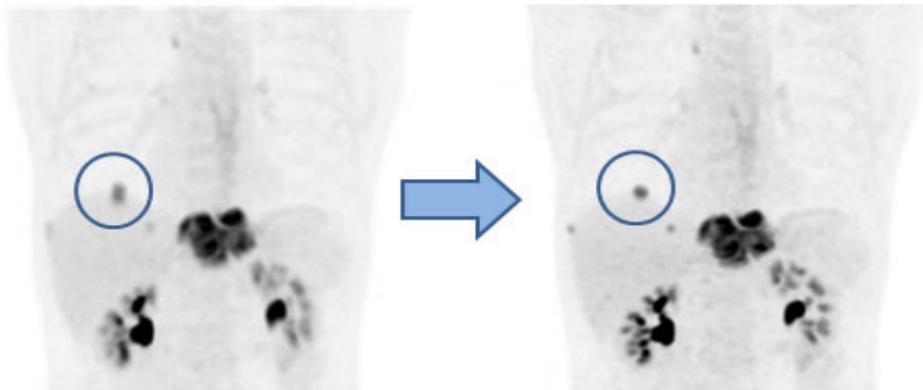
(検査時間30分)

(検査時間15分)

検査時間を短縮しても、画像はほとんど変わりません。

特徴4 その他 (呼吸同期、動態解析)

呼吸による影響を受けやすい横隔膜直下などの病変も安静呼吸で、検出が可能です。
検査によっては、投与された放射線医薬品の代謝率や集積機序の解析が可能です。



呼吸同期

(呼吸同期を使用)

がん病変が明瞭に描出されています(丸印)。